

大野松雄のまなざし

— 映像と音響によるレポート —

会場

FRAME in VOX

上映スケジュール

	12.13土	14日	27土	28日
11:30	A ★	C	B ★	D
13:40	B ★	D	C	A ★

★…アフタートークあり

プログラム

- A** あざみ寮・もみじ寮 今日もみんな元気です (1974)
- B** 光の中に子供たちがいる 第1部 大津市に於ける新しい保育の実践 (1975)
- C** 光の中に子供たちがいる 第2部 カズエちゃんの二年目 (1976)
- D** 光の中に子供たちがいる 第3部 「わかれ」は「かどで」 (1977)

入場料

一般:1,200円 学生:1,000円 ※当日券のみ

アフタートーク ゲスト

玉村 公二彦 Kunihiko Tamamura

1956年生まれ。大野松雄と子どもの発達を追求した田中昌人のもとで障害児教育を学ぶ。奈良教育大学を経て、現在、京都女子大学教授。2005年、田中昌人死去の後、その資料・映像整理と保存のために、大野松雄と知りあう。以後、「もみじ・あざみ」の寮生劇、行事への送迎などを行いながら、大野の行ってきた戦後の映画史、音楽史などについての聞き手となる。



同時開催

大野松雄の本棚

2025.12.13(土)・14(日)・27(土)・28(日)

“アトム”の足音”を創造し、宇宙や自然科学を愛した音響デザイナー大野松雄が集めた本の世界。どうぞゆっくりお手に取ってご覧ください。

大野 松雄

Matsuo Ohno

1930年東京・神田生まれ。

戦後、黎明期のテレビで音響制作に携わり音響デザイナーとしての地位を固める。日本初の国産アニメーション『鉄腕アトム』では“アトムの足音”など新しい音響表現を作り出し後進に大きな影響を与えた。その後数々の万博、科学映画、PR映画などの音響、ドキュメンタリー映画の制作他幅広いジャンルで活動。1990年代に京都へ移住。

『夜明け前の子どもたち』(1968年・柳澤壽男監督)の製作に音響として関わったことをきっかけに、大津市から石部へ移転後に知的障害者更生施設として再スタートする“あざみ寮”と授産施設“もみじ寮”の人々の様子を記録した『あざみ寮・もみじ寮 今日もみんな元気です』を制作。その後もライフワークとして、寮生劇の制作などに携わり40年以上にわたる交流を続けた。

また、子どもたちとの交流を通して得た、独自の視点で自らドキュメンタリー映画の制作に着手。当時、大津市が打ち出した障がい児を地域の保育園・幼稚園へ全入させるという政策の中、一人の少女の成長を追った『光の中に子どもたちがいる』(三部作)を完成させた。

2022年12月19日 92歳没。



〒604-8031 京都市中京区大黒町 44 VOX ビル 3F
TEL 075-748-1581 MAIL info@frame-in-vox.com

frame-in-vox.com

Design: Akira Nihei

The Gaze of Matsuo Ohno

大野松雄のまなざし

— 映像と音響によるレポート —

DATE 2025.12.13 SAT 14 SUN 27 SAT 28 SUN

PLACE FRAME in VOX

Brand new day

FRAME in VOX
borderless media space

主催: Brand new day 共催: FRAME in VOX 協力: 京都女子大学発達教育学部、社会福祉法人大木会、社会福祉法人びわこ学園、沙加戸明、沙加戸弘

PROGRAM

A



あざみ寮・もみじ寮 今日もみんな元気です

1974年／16mm／85min

監督:大野松雄

製作:進歩における極微の会(大野松雄、梅田克己、田村俊樹、山打寛倭、吉国秀幸、桜田純弘、米本尚之助)

1974年10月、社会福祉法人大木会が運営する知的障がい者更生施設「あざみ寮」が20周年、知的障がい者授産施設「もみじ寮」が5周年を迎えていた。糸賀一雄氏の私塾として大津市に誕生したあざみ寮の出発の様子から、福祉法改正を機に現在の湖南市へ移転、その後の社会の変化の中で生まれる課題に向き合い活動する人々の様子を記録した。

PROGRAM

C



光の中に子供たちがいる

第2部 カズエちゃんの二年目

1976年／16mm／100min

構成・制作:大野松雄・米本尚之助

監修:田中昌人・田中杉恵

かずえちゃんが入園して2年め。新しい入園児を迎える春。一年を通じて、だんだんに場面に応じた動作や音声が出てくるようになり、それらが豊かになっていく。友達との共同作業や友達の行動を真似るなど、より複雑なことができるようになっていくかずえちゃん。

PROGRAM

B



光の中に子供たちがいる

第1部 大津市に於ける新しい保育の実践

1975年／16mm／99min

構成・制作:大野松雄・米本尚之助

監修:田中昌人・田中杉恵

大津市が障がいを持つ子どもの保育所への全入所を打ち出した「保育元年」の翌年、3歳10ヶ月になるかずえちゃんが朝日ヶ丘保育園に入園した。通園することでもかずえちゃんにとっては大変な体力を必要とするが春から夏にかけて徐々に力をつけ、お友達との遊びや行事に参加しながら、撮影スタッフのカメラをのぞき込むことも。

PROGRAM

D



光の中に子供たちがいる

第3部 「わかれ」は「かどで」

1977年／16mm／115min

構成・制作:大野松雄・米本尚之助

監修:田中昌人・田中杉恵

かずえちゃんが入園して3年め。ずいぶんと手足の力がついたかずえちゃん。遠足で訪れた琵琶湖文化館の展望台までの階段も登り降りができるように。「怖い」と自分の気持ちも伝えられるようになったり、相手(第三者)を意識した行動が見られるようになってくる。3月、お友達と一緒にうたを歌うかずえちゃんの「わかれ」と「かどで」の卒園式。

子どもたちは自身の光で輝き合っているのです。

大野松雄

『光の中に大人たちもいる』

ー独断的発達についての覚書ー』より抜粋

私は幼児教育、保育の専門家ではありません。また障がい児教育の専門家でもありません。本職は、電子音楽などをつくっている、音響デザイナーです。(たまたま障がいを持っている子どもたちとのつきあいの中で)「光の中に子供たちがいる」という記録映画というより、映像と音響によるレポートをつくることになってしまった一人の大人です。

この記録は、一人の障がいを持っている子どもが、大津市の公立保育園に入り、一年の間にどのように変わっていくか、そしてその子どもとかわる他の子どもーいわゆる「健常児」たちもどう変わっていくか、さらに、その変わり合いの中で私を含めた「大人」も、どう変わっていくか…を記録したものです。

完成後、多くの御意見や御批判を頂きました。その中に気になるものはいくつかあります。その一つが「光の中…」の光源についてのものです。私は、光源は子どもたち自身と考えています。障がいを持とうが持つまいが、子どもたちはみんな「光」です。子どもたちは自身の光で輝き合っているのです。ところが、恵まれない子らに、大人たちが光を当ててやらねば…という考え方が意外に多いのです。「大人」たちは、少しうぬぼれが強すぎるようです。「大人」たちが子どもたちにしてやれることは、みんながもっと輝くよう手助けをする…精々その程度のことでないでしょうか。

惑星が恒星のおかげで光るように…。そして「光の中に大人たちもいる」状態が出現し、子どもたちはやっと安心して、光をうたい続けられるでしょう。

大野松雄

